

埼玉大学経済学部同窓会 経和会会報

第20号

2017年6月1日

発行：埼玉大学経済学部同窓会
経和会会長 星野 幸彦
編集：広報委員長 千葉 健
住所：さいたま市桜区下大久保738
志村コーポ102号
電話&FAX：048-699-7281
(印刷：望月印刷㈱)

経和会ホームページをご利用ください URL <http://saidai-keiwakai.sakura.ne.jp> メール office@saidai-keiwakai.sakura.ne.jp

卒業生インタビュー

海外に挑んだ男が 苦悩の先に掴んだもの

ロードレーサー・佐野淳哉の真実



海外に挑んだ男が 苦悩の先に掴んだもの

ロードレーサー・佐野淳哉の真実

出口雅史(経和会理事)=文



2014年6月29日、埼玉大学経済学部出身の32歳(当時)が日本の頂点に立った。佐野淳哉。自転車競技の国内最高峰レース「全日本自転車選手権大会」で、見事優勝を飾ったのである。彼は、表彰台で優勝コメントを求めるマイクを向けられると、人目もはばからずに涙を流した。その涙が語るものとは――。

「子供の頃は気が小さくて、人前で何かに挑戦することを恐れる性格でした。人前に出たいという気持ちはあるのですが、それを行動に移すことができなかった、一人になることが多かったですね」

サッカー王国・静岡県旧清水市出身。多くの友達はサッカーボールを追いかける中、佐野が小学生の時に習っていたのはエレクトーン。しかも、音楽が好きで習っていたのではなく、音楽の成績が悪くて親に無理やり習わされていたという。その結果、高校時代もオーケストラ部で活動し、自転車をはじめたのは埼玉大学に入学してからだった。

「兄が愛知県の大学に通っていたのですが、静岡の自宅まで自転車で帰ってきたんですよ。150キロから200キロぐらいはあったのではないのでしょうか。その時に『自転車ってすごいなあ』と思ったんですよ」

大学時代も1年生の時はオーケストラ部に所属していたものの、2年生から自転車同好会に所属。実際に競技を始めたのは3年生からだだったが、すぐにその素質は開花する。競技を始めた1年目で全日本インカレに出場、翌年にはクラブチームに所属して、U-23全日本選手権ジャパンカップのアマチュアの部で優勝を果たした。その実績が買われて、卒業後は自転車大手メーカー・ブリヂストンのチームに所属となる。



「ただ、社会人で始めた頃はなかなか成績を残せませんでした。それで、2008年にNIPPPOというチームに移籍するのですが、この移籍が自分の自転車競技人生の中でも、一つの転機になったと感じています」

自ら志願したNIPPPOへの移籍。チームメイトや監督とのコミュニケーションが重要なロードレースにおいて、NIPPPOはその波長も自分に合ったと佐野は振り返る。すると、2011年のジャパンカップで3位入賞するなど、成績も徐々に始まるようになった。

NIPPPOはイタリアなどロードレースの本場・ヨーロッパで行われるレースにも参加していたため、佐野の活動も徐々に海外へと広がり始める。そして2013年、NIPPPOの紹介もあってイタリアのチームに移籍。

活動の場を本格的にヨーロッパに移して、世界での飛躍を誓ったはずだった。

「苦しかったですね。コミュニケーションが大事な競技なのに、言葉の壁もあってチームに溶け込むことができませんでした。ヨーロッパに憧れていましたが現実を思い知り、うつ病になってしまって、4ヶ月ぐらい自転車にも乗れませんでした」

わずか半年での帰国。海外で生活、そして競技をすることの難しさを痛感した半年間だった。イタリアのチームに自分を紹介してくれたNIPPOに戻ることもできず、佐野の頭には引退という文字がよぎり始めていた。

「設立されて間もない那須ブラーゼンというチームの監督が元チームメイトで声をかけてくれたんです。どうせやめるならもう一度しっかり走ってみて、それでもダメなら引退しようと思いました」

呼んでくれた監督のために、そして自身のために、佐野は一心不乱にペダルを踏み込んだ。その努力は、入団1年目に早々と実



学生時代

を結ぶこととなる。冒頭に紹介した「全日本自転車選手権大会」での優勝で、佐野淳哉というロードレーサーは復活を遂げた。

「家族も無理だと思っていたと思います。ただ『やっぱりダメだった』とは思われなくなかった。治るとも思っていないんですけど、ここまで戻ってこれたことが嬉しかったですね」

去年、大阪を本拠地とする「マトリックス・パワータグ」に移籍して、今年年間約30レースに出場している。去年のリオデジャネイロオリンピックは選考会で涙をのんだが、今の大きな目標は2020年の東京オリンピックだ。

「肉体的には伸びていないし、競技するだけではなく自転車に興味を持ってくれる子供たちを増やして、指導する活動もしていきたいです。東京オリンピックは、自分が指導した



教え子に出場してほしいですね。もちろん、私もまだ現役ですので自らが選手として出場することも目指していますけど(笑)」

現在35歳。キャリアはまだ短いですが、年齢的にはベテランと言われてもおかしくない。ただ、一度どん底を見た人間の強さは半端ないものがある。イタリアで味わった屈辱の日々が、今、佐野を動かす原動力ともなっている。もう何の迷いはない、あの苦しかった日々を笑顔で語る佐野の姿がそれを物語っていた。

佐野淳哉さんプロフィール

1982年1月9日、静岡県旧清水市生まれ。静岡県立清水南高校卒業、2005年埼玉大学経済学部経営学科卒業。プリチストンサイクリングチーム、NIPPO、那須ブラーゼンなどに所属し、那須ブラーゼン所属時の2014年に「第83回全日本自転車選手権大会ロードレース(男子エリート)」で初優勝を飾る。現在は、マトリックス・パワータグ(大阪)に所属。妻、長女、次女の4人家族。



開催予告 ノーベル賞受賞者 梶田先生 講演会

本年10月14日(土)に開催を予定している埼玉大学第7回ホームカミングデーに、2015年にノーベル物理学賞を受賞された梶田隆章先生(1981年理学部卒業)をお招きして講演会を開催いたします。(埼玉大学・埼玉大学同窓会共催)

皆様におかれましては、是非講演会へお越しいただき、同窓生の活躍にエールをお送りください。なお、講演会終了後には、梶田先生を囲んだ懇親会も計画しています。

ホームカミングデー及び講演会の詳細は、内容が確定し次第、大学HP、経和会HPに掲載される予定です。

JR東日本×埼玉大学

「課題解決型インターンシッププログラム」が開講されました。

埼玉大学と東日本旅客鉄道大宮支社(JR東日本)による「課題解決型インターンシッププログラム」(全15回)が2016年9月30日(金)から開講されました。

埼玉大と同社は2015年8月に埼玉大学周辺地域の魅力づくりや埼京線沿線の活性化、次世代の地域づくりを担う人材育成などに向けた協定を締結しており、2015年度はJR大宮駅でのデジタルサイネージ放映、沿線の方々へのインタビューやフィールドワーク、今後の埼京線沿線ブランド等に資する取り組みを展開するきっかけづくりとしてワークショップを開催し



ました。今回の講義はそれらを発展させた協定に基づく具体策のひとつで、今年度も開講する予定です。

講義は「地域活性化創造プログラム」文化施設を起点に「JR東日本とまちづくりを考える」をテーマに、JR東日本大宮支社長が講師を務めるほか、さいたま市の協力も得て、まちづくりの事例や必要な知識を学び、最終回には埼京線与野本町駅を中心に、彩の国さいたま芸術劇場等と連携したまちづくりについて学生らが検討し、JR東日本に提案を行います。

JR東日本大宮支社で行われた2017年2月3日(金)の最終回では、学生が3



つのチームに分かれ、埼京線の与野本町駅を中心に、彩の国さいたま芸術劇場とも連携し、ストリート生け花や音楽演奏などで劇場まで通りをアートストリート化するアイデアや、バラ祭りや芸術劇場とのコラボレーションなどで芸術に触れ合うまちを目指すといった案が提案されました。

埼玉大学基金室より

埼玉大学基金の現状報告とご協力をお願い

平成25年に設立いたしました埼玉大学基金は、皆様からのご理解ご支援を賜り、その目的のひとつである「埼玉大学イン

ターナショナルレジデンス(国際学生寮)の整備について、創立70周年を迎える平成31年10月の完成を目指して準備を進めている状況です。

さらに、埼玉大学基金内に新たに「埼玉大学修学サポート基金」を設立し、経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援を行うこととしました。

詳細は下記ホームページをご覧ください。ければ幸いです。同窓生の皆様からのご

理解ご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

埼玉大学ホームページ

「埼玉大学へのご寄附」
(<http://www.saitama-u.ac.jp/funds/>)

お問い合わせ先

「埼玉大学基金室(広報渉外室内)」
TEL: 048-858-9330
E-Mail: s-ikin@gr.saitama-u.ac.jp

第67回むつめ祭の開催

むつめ祭開催報告

2016年11月24日から26日にかけて、第67回むつめ祭が開催された。今年は去年と比べて長い、計三日間開催されたこともあり、大学構内は大いに賑わった。各々のサークルや部活動が模擬店の屋台を出して楽しんだり、日ごろの活動の成果を披露したりと様々なイベントが行われた。またむつめ祭は、学生同士の交流だ

むつめライブ企画

むつめ祭の中でも埼玉大学生を熱狂させたイベントの1つとしてむつめ祭常任委員会のライブ企画がある。この企画では毎年、大学生に人気のあるバンドやアイドルを招いているのもあって、出演アーティスト発表



けでなく、地域の方々の催し物、フリーマーケットや近所の飲食店も屋台を出店するなど地域を挙げての大イベントとなっている。来年も、再来年もさらに進化を続けていけるようなイベントであると感じた。これからも地域を盛り上げるお祭りとしてあり続けるだろう。

前から大学内やSNS上で大きな話題となっていた。

今年の出演者は2組で1つは2009年に結成されてからバンドでは珍しいピアノを取り入れた大学生に人気なアーティスト「WEAVER」と、2010年エイベックス初の大規模なアイドルオーディション「ave xアイドルオーディション2010」が開催され、全国7000名の応募から選ばれた12名から構成された、今もなお人気を博しているアイドル「SUPER☆GIRLS」である。どちらも、パワフルなステージを披露し、「Mutsume Fes Live 2016 Lunch&Dinner」と称し、全2公演を行った。SUPER☆GIRLSは握手会、ハイタッチでの見送りなども行い、WEAVERはサイ

ン入りグッズ抽選会なども開かれ、全2公演で10000人を超える動員をみせ、大盛況であった。むつめ祭に欠かせない企画となった本ライブ

ミスコンテストの開催

昨年引き続き、今年も開催されたミス埼玉コンテストは多くの企業、地域の方々にご協力のもと大盛況となった。本コンテストはむつめ祭最終日に体育館での開催だった。毎年、コンテストに際してテーマが設けられる。今年には「わたしがつ



企画。これからも埼玉大学生の話題を席卷し、大いに盛り上がることを期待される。

くる、わたしの色」と題し、動画や、イベント参加などのプロモーションを通してミスファイナリスト一人ひとりの個性を多くの方々に見てもらい、ミスファイナリスト自身にも自らの個性・強みを再認識することで各々の自信となり、より一層輝きが増すようにと願いを込めてこのテーマは設定されたという。このテーマに基づきミスファイナリスト達は約半年間に及ぶプロモーション活動に精を出してきた。今年で8回目を迎えた本コンテストだが、年々イベント自体の進行はスムーズになり、企画も面白が増してきていることもあつてか、来場者数は過去最大のもの

のとなった。観客の座席には収まらず、後ろに立ち見の観客が現れるほどだ。きつとミスファイナリスト各々の家族や、サークルの仲間、友達など身の回りの人たちに支えられながら、応援されながら試行錯誤の中歩んできた彼女たちの晴れ舞台を一目見ようと詰めかけたのだろう。本番中は何とも言えない緊張の雰囲気漂っていたが、コンテストが終わると少し肩の荷が下りたような安堵の表情を見せる彼女たちに心からお疲れ様、という言葉が出た。こんな素敵なイベントができるのは協賛をいただいた企業、地域の方々の協力があるってこそであるし、何より彼女たちがコンテストに出場してくれたからである。という感謝の念を忘れてはならない。彼女たちの多方面にわたる活躍を祈っている。



部活動紹介

埼玉大学陸上競技部

埼玉大学キャンパスの一番奥にある運動場では、季節を問わず一所懸命汗を流す選手の姿を見ることが出来る。今回は埼玉大学が誇る陸上競技部について紹介したいと思う。所属部員は50人程で、日本女子リレーの監督経験がある方や、室内陸上の記録を保持している指導者の監督の元、全国大会出場者を多く輩出している。

お話を伺ったのは全国大会出場経験を持つ江口琴美さん。埼玉大学陸上競技部に入って良かった事は「困ったことがあったら相談できるような信頼できる仲間ができたことや、先輩ができることによ



って責任感が生まれ、自分自身も成長することができたこと」だと言う。

個々のレベルが高い環境に身を置き、信頼し合う仲間と切磋琢磨することで、自身の記録を伸ばしていく。そんな素晴らしい埼玉大学陸上競技部を、埼玉大学が誇る部活動として、これからも応援していきたい。



イベント紹介

KICK OFF PARTY



昨年の5月、埼玉大学学生団体FP主催の新生歓迎イベント「KICK OFF PARTY」が浦和にあるライブハウスにて開催された。KICK OFF PARTYは4年連続で開催されているイベントで、新入生同士で行う催し物や埼玉大学の音楽サークルによる演奏などで、一年生の入学を歓迎する事を目的としている。埼玉大学では全学部共通の新生歓迎イベントは少ない為、一年生にとっては他学部の友人と知り合う良い機会となっている。

会場を盛り上げてくれた出演サ

ークルはB.F.G.A (バンドサークル)、モダンジャズ研究会 (ジャズバンド)、Chocobatz (アカペラサークル)、YellowBeatz (ブラックミュージック)、AfterBeatClub (ダンスサークル)、Collage (DJサークル) の全6団体で、司会進行を前年度ミス埼大コンテストグランプリの多賀香織さんが務めた。

イベント当日は、各音楽サークルがバンドサウンドやアカペラで、来場した一年生を大いに盛り上げた。新入生は高校にはない多様性に富んだ音楽ジャンルを楽しんでいるようだった。レクリエーションとして、埼玉大学にまつわるクイズ大会や、一年生同士の親睦を深める借り物競争などが行われ、大変な盛り上がりを見せた。

KICK OFF PARTY は今年も開催を予定しており、多くの新入生が参加する事が予想される。多くの友人を作ることができ、新入生にとって過ごしやすい大学であるためにも、このイベントに期待したい。

平成29年度 経和会総会のご案内

一 日時等

● 総会：平成29年7月8日(土)
午後1時から

● 講演：同、午後2時から

● 懇親会：同、午後3時30分から

二 場所

● 総会：埼玉大学経済学部A棟
504教室

● 講演：同

● 懇親会：バル・メリンの森
(大学第二生協内)

三 講演会

● 講師：山本 俊郎氏(小田急
電鉄株式会社 常務取
締役執行役員)

● 演題：小田急グループの経営
戦略

四 懇親会会費 3,000円

(現役学生・院生は無料です)

五 交通手段

● JR京浜東北線「北浦和駅」よ
り、埼玉大学行きバス乗車15分
程度

● JR埼京線「南与野駅」より、
埼玉大学行きバス乗車10分程度
● JR埼京線「南与野駅」より、
タクシー乗車では料金は1,0
00円程度

五 出席

6月23日(金)までに、同封の「はが
き」にてお申し込みください。

第11回 むつめゴルフ会報告



第11回を迎える「むつめゴルフ会」のゴルフコンペが、昨年10月20日に大宮国際カントリークラブで開催されました。大学院在生1名を含む53名が参加し、そのうち経済学部と文理学部は20名でした。

今大会の優勝は、経済学部昭和47年卒業の鈴木均さん。ネット72・8(グロス86)で回り、2年連続で経済学部卒業生が優勝しました。しかしその後は、大崎鼎さん(昭和45年卒)が10位と、経済学部・文理学部の卒業生でトップ10に入ったのはわずかに二人。少し寂しい結果となりました。

第12回むつめゴルフ会は、平成29年10月19日(木)に大宮国際カントリークラブで開催予定です。大会情報は、フェイスブック「埼玉大学同窓会によるむつめゴルフ会」に随時掲載しますので、ご友人をお誘いの上、是非ご参加ください。

以下、経済学部・文理学部卒の参加者(敬称略、順不同)
松村雄・池田典義(S38)、大崎鼎・細越博資・太田博・石田肇(S45)、室星達雄・清水克通・由井文良・鈴木均(S47)、小林千秋・若杉順一・望月康邦・松崎正代(S48)、高野政之(S50)、手嶋毅・三村典秋(S57)、古屋久昭(S60)、出口雅史(H12)、川島秀男(大学院在生)



第3回 経和会サロン報告



第3回を迎える経和会サロンが、今年2月18日に埼玉大学東京ステーションカレッジで開催され、新百合ヶ丘総合病院の大石朝子さんを講師に招き、「がんの早期発見とがん治療最前線」について講演していただきました。

日本人の死因で断トツの1位であるがんには様々な種類がありますが、すべてのがんにおいてストレスやタバコ・食品添加物などが、がん発生の要因となっているそうです。

なかなか聞くことができない病院の裏事情までざっくばらんに語っていただいた大石さんですが、がんの治療について大事なことは「セカンドオピニオンを必ず受けること」「自らも病気について勉強すること」、そして病院選びの際は「症例数を確認して経験の多い病院を選ぶこと」と教えてくれました。

講演の後には懇親会が開かれ、活発な意見交換などが行われました。経和会サロンは、今後も定期的に関催される予定です。皆様の参加をお待ちしております。

平成28年度 優秀卒業論文表彰

最優秀卒業論文

五月女 晴奈

地域コミュニティの基盤としての商店街の役割

優秀卒業論文

大塚 愛真

『商工省準則』と『企画院準則』の比較

村野 翼

ヘイトスピーチ規制に対する考察

柳谷 一輝

タイにおける自動車産業の持続的発展のための分業戦略

編集後記

■教育学部、工学部などの一部を除き主な古い建物の耐震改修などが完了し使いやすい綺麗になりました。東京ステーションカレッジが東京駅から神田の万世橋付近に移転し、5学部全ての学務係などの学生の窓口が全学講義棟1号館1階(旧共通教育A棟、旧教養部A棟)に移転したなど、この1年でも様々に大学は変化しています。

■本会報は今回で20号となりました。今後ともご愛顧いただきますようお願いいたします。